

◎佐渡アイランド集落ツーリズム構想の実現に向けて

【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】のプランニングに関する確認と提案

(1)三浦市長の政治姿勢について

- ①シンプルかつ明確なビジョン＝世界観の共有の重要性
- ②理想の現実化なのか、現実の理想化なのか
- ③経済波及効果算出等による、市民への情報共有、協働意識醸成の必要性

(2)定量分析、資料の見える化の重要性について

- ①定性分析と比べた定量分析の圧倒的不足の現状
- ②表の作成から一歩踏み込んだグラフ化等の資料の見える化の重要性
- ③各課におけるPDCAサイクルの実行状況
Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)による業務改善の重要性

(3)佐渡の明るい未来をつくる近似式：DMC×CCRC≒MMKについて

- ①DMC≒CCRC≒RMO≒CSという意識共有
- ②佐渡版地域運営組織（RMO）のビジョン
- ③佐渡版コミュニティスクール（CS）のビジョン

■■■演壇にて■■■

皆さん、こんにちは。三度のメシより佐渡が好き!!!政風会の室岡啓史でございます。『なんでも提案団』として通告に従い一般質問をいたします。

なお、配布資料のPDFデータは、『室岡ひろしと佐渡の明るい未来をつくる会』オフィシャルサイトにアップしておりますので、テレビをご覧の方は『室岡ひろし』で検索していただき、是非ともご確認ください。

佐渡の農山漁村の生業を大切に、集落でかけがえのない時を過ごす人と人とがつながっていく世界観、『佐渡アイランド集落ツーリズム構想』の実現にむけて質問いたします。

【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】のプランニングに関する確認と提案

(1)三浦市長の政治姿勢について

- ①シンプルかつ明確なビジョン＝世界観の共有の重要性
- ②理想の現実化なのか、現実の理想化なのか
- ③経済波及効果算出等による、市民への情報共有、協働意識醸成の必要性

昨年度 3 月の一般質問でもお聞きさせていただいたことについて再度お尋ね致します。市民の方とお話をする中で、三浦市長はどのようなビジョンを実現しようとしているのか分からないというお声を耳にすることが少なくありません。首長たるもの、シンプルかつ明確なビジョンを常に言葉で発信し続け、市民全員と世界観を共有するという、とてつもなく大変かつ重要な仕事をする必要があると考えます。三浦市長の最上位ビジョンはどのようなことなのでしょう。(佐渡市の将来を担う世代への人材確保も含めたその促進に力を込めて参りたい。基本的に今佐渡市にあるがまま、あるものをどれだけ魅力化するか、それを見える化するか、それは観光だろうが産業だろうが全てにおいてまずその考え方を推進することだ。とご答弁済) また、政治スタンスは、理想を思い描き、理想を現実化していくものなのか、あるいは、現実の諸問題を粛々と解決に向かわせる、現実の理想化なのか教えてください。そして、情報の見える化や経済波及効果算出等による、市民への情報共有、一緒に佐渡の明るい未来をつくりましょうという協働意識の醸成の必要性について強く感じております。三浦市長のお考えをお聞かせください。

(2)定量分析、資料の見える化の重要性について

- ①定性分析と比した定量分析の圧倒的不足の現状
- ②表の作成から一步踏み込んだグラフ化等の資料の見える化の重要性
- ③各課におけるPDCAサイクルの実行状況

Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)による業務改善の重要性

去る 10 月～11 月に行われた決算審査特別委員会にて委員として平成 28 年度の決算審査をさせていただきました。昨年度、佐渡市が執行した各施策について費用対効果を問うという趣旨です。そこで目の当たりにした事実は、定性分析と比べて定量分析が圧倒的に不足しているという状況でした。地方自治法第 2 条第 14 項では、『地方公共団体は、その事務を処理するに当つては、住民の福祉の増進に努めるとともに、最少の経費で最大の効果を挙げるようにしなければならない。』と定められています。そのことは、民間であれ行政であれ求められますが、定量化が不足しているという佐渡市の現状は分析不十分のゆゆしき事態であると強く指摘します。また、重要なデータがつまった表については各課で作成しているものの、単純な表の作成からもう一步踏み込んだグラフ化や分析等、資料の見える化の重要性について認識が薄いようにも感じました。どのように認識しているのか佐渡市の見解をお聞かせください。

そして、事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つであるPDCAサイクル：Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善するという点について、どのように認識しているのか佐渡市の見解をお聞かせください。

(3)佐渡の明るい未来をつくる近似式：DMC×CCRC≒MMKについて

- ①DMC≒CCRC≒RMO≒CSという意識共有
- ②佐渡版地域運営組織（RMO）のビジョン
- ③佐渡版コミュニティスクール（CS）のビジョン

前回の一般質問での市長・副市長の答弁を受け、微修正致しました。佐渡の明るい未来をつくる近似式：DMC×CCRC≒MMKとは、観光地域づくりに関わりながら、元気な高齢者として日々の生活を営み、地域に貢献していただく。そして、男女問わず人からモテモテ困る人生の円熟期を過ごすことで、その人にとってとても幸せな人生だったと思えるような世界が実現できるということです。私は、高齢者が健康に暮らせる地域づくりについて、CCRC（Continuing Care Retirement Community）＝「継続的なケア付きの高齢者の共同体」の考え方を取り入れ、集落で暮らす高齢者の皆さんが健康長寿でありつづけられる佐渡づくりが必要だと考えます。例えば、太鼓で心も体も健康になるエクサドンやしゅきっと教室など、介護予防教室と温泉施設利活用を掛け算して、健康寿命延長策、認知症予防対策をするべきではないかと考えます。

また、アクティブシニアつまりは、元気な高齢者の皆さんが、小中学校に赴き総合学習に関わることや、子どもを預かるような多世代交流をしたり、野菜作りや草刈りなどの地域の仕事を行うこと、観光のお客様に集落のガイドを行うことなどによって、生き甲斐を見出し、ひいては健康長寿であり続けること。それが観光DMCの観光地域づくりの中で掛け算されていく仕組みづくりが必要だと考えます。私は、観光DMCは「旅行商品の地産地消を推進する民間企業」という解釈をしておりますが、より多くの高齢者の方が集落への貢献という役割を担いながら暮らしていただくことが重要だと考えます。

そこで、空き家・廃旅館・廃校舎などをリノベーションして、アクティブシニアの皆さんの住まいとしたり、集落ガイドや生活必需品購入の拠点として利活用できないかと考えます。DMC×CCRC≒MMKが佐渡の明るい未来をつくる近似式であるということについて、佐渡市の見解をお聞かせください。また、DMC≒CCRC≒RMO（地域運営組織）≒CS（コミュニティスクール）という意識共有を行い、それぞれのリングを重ねていく作業が地域づくりそのものであると考えます。それぞれの所管である観光振興課、高齢福祉課、地域振興課、学校教育課の4課や企画課等他の課が連携すること、つまり予算と責任は各課が持ちながら『課間連携』を推進することがこれからより一層必要になってくると考えますが、佐渡市の見解をお聞かせください。

次に、佐渡版地域運営組織（RMO）のビジョンについてお尋ね致します。総務省が主導する地域運営組織（RMO：Region Management Organization）の構築に関して、上越市のNPO法人・かみえちご山里ファン倶楽部の関原剛さんより、何度も佐渡にお越しいただきセミナーとワークショップが開催されております。小さな『クニ』の集合体として佐渡があるという考え方は、大変勉強になりました。私は、佐渡の地域運営組織を23の小学校区単位を原則として、組織化・運営するべきではないかと考えております。また、集落のマップやガイドブック作成等、地域の情報化を集落支援員（地域活動支援員）や地域おこし協力隊の招聘により実現できるのではないかと考えております。佐渡市の見解をお聞かせください。

最後に、佐渡版コミュニティスクール（CS）のビジョンについてお尋ねします。コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）とは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の6）に基づいた仕組みです。

DMCやCCRC、RMOとの連携により例えば、佐渡の学校給食に遊休農地を活用した野菜を提供する等が実現できると考えます。アクティブシニア層をメインターゲットとし、学校給食用の野菜や果物を遊休農地で作ってもらい、売り先は決まっております。佐渡の子どもたちが美味しく食べてくれるということに生き甲斐を見出すことができる。地産食材供給の現状を打破することができる取り組みになると考えます。つまり、DMC・CCRC・RMO・CSが連動することで佐渡の明るい未来をつくることができると確信しております。佐渡市の見解をお聞かせください。

以上で、一回目の質問を終了します。
